

(学校番号047) 令和4年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【桜木小学校】

① 4月25日 目標・策		
知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より国語・算数の「知識・技能」において1pt向上させる。また、R4年度全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」において全国・全市平均を上回る。	⇒ スタディサプリや「ドリルパーク」を活用し、児童が自分の学習内容への理解を把握したり、漢字や計算等の反復・習熟に取り組んだりして基礎・基本が定着できるようにする。また、教師が児童の学習履歴を学期に1度確認し、個別に学習計画を立てる等の支援に活かす。
思考・判断・表現	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より国語・算数の「思考・判断・表現」において0.5pt向上させる。R4年度全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の国語・算数の「思考・判断・表現」において全国・全市平均を上回る。	⇒ 「ムーブノート」や「オクリンク」等を活用して①自分の考えを形成し、自分の言葉で表現する力を高めたり、②児童同士で考えを共有し、表現したりする授業実践を進める。個別最適な学びと協働的な学びに関する授業を教師一人1授業を実践し、研究を深める。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の学習に関する質問項目において、肯定的な回答率の割合を80%以上にする。また、「よい授業」の児童対象アンケートにおいて、因子別に2回目の結果が1回目の結果を上回るようにする。	⇒ 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の実践に取り組む。授業では、児童と必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせるとともに、自己の振り返りができる時間を設定する。また、各種調査や「よい授業」アンケート結果を分析し、実態把握と授業改善を図る。

③ 9月1日 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

② 8月30日	
全国学力・学習状況調査結果・分析	
<p>R4年度全国学力・学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」において、R3年度の自校結果(平均正答率の自校と全国との差)と比較し、国語+2.8pt、算数+1.1ptであった。また、国語・算数ともに平均正答率は全国・全県平均を上回る結果であった。内容別に見ると、国語では漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題に課題があり、全国・全県平均を下回った。解答類型を見ると、書き直すときに気をつけた内容として行の中心ではなく文字の大きさであると捉えている児童が多かった。算数ではどの領域も平均正答率は全国・全県平均を上回っていた。</p> <p>R4年度全国学力・学習状況調査の国語・算数の「思考・判断・表現」において、R3年度の自校結果(平均正答率の自校と全国との差)と比較し、国語+2.5pt、算数-0.2ptであった。また、国語・算数ともに平均正答率は全国・全県平均を上回る結果であった。内容別に見ると平均正答率は全国・全県平均を上回っていた問題だが、国語(記述式)の人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けたりすることに課題がみられる。伝え合い活動や自己の学びを振り返る活動を引き続き充実させたい。</p> <p>R4年度全国学力・学習状況調査における「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」や「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は80%以上で全国・全県平均を上回った。「調べ学習や意見交換、自分の考えを発表する場面、ICT機器をどの程度使用しているか」の質問項目においても全国・全県平均を上回った。今後もICT機器を活用して、児童主体の学びとなるよう授業改善に努めていく。</p>	

④ 2月〇〇日 さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3		小4	
小5		小6	

⑤ 2月〇〇日 成果指標に対する達成状況		
		評価(※)
知識・技能		
思考・判断・表現		
主体的に学習に取り組む態度		

⑥ 3月〇〇日 次年度への課題と改善策	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

※評価
 A 8割以上(達成) C 4割以上(あと一歩)
 B 6割以上(概ね達成) D 4割未満(不十分)